

国際的な気候変動政策の動向と 気候変動研究への要請

2014年8月12日

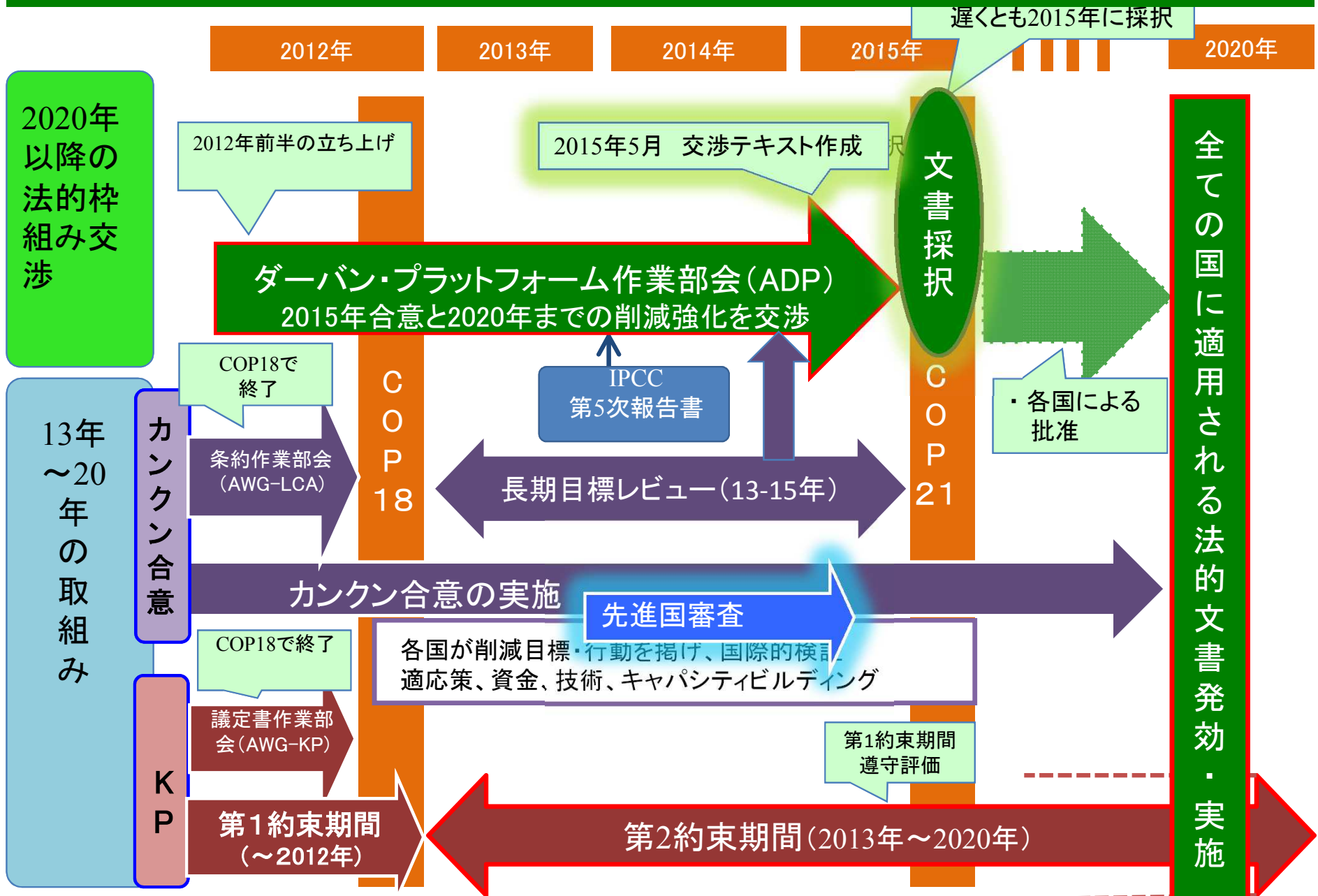
高村 ゆかり(名古屋大学)

- 国際的な気候変動政策の動向：研究が置かれている国際的文脈
- 気候変動研究への政策的要請

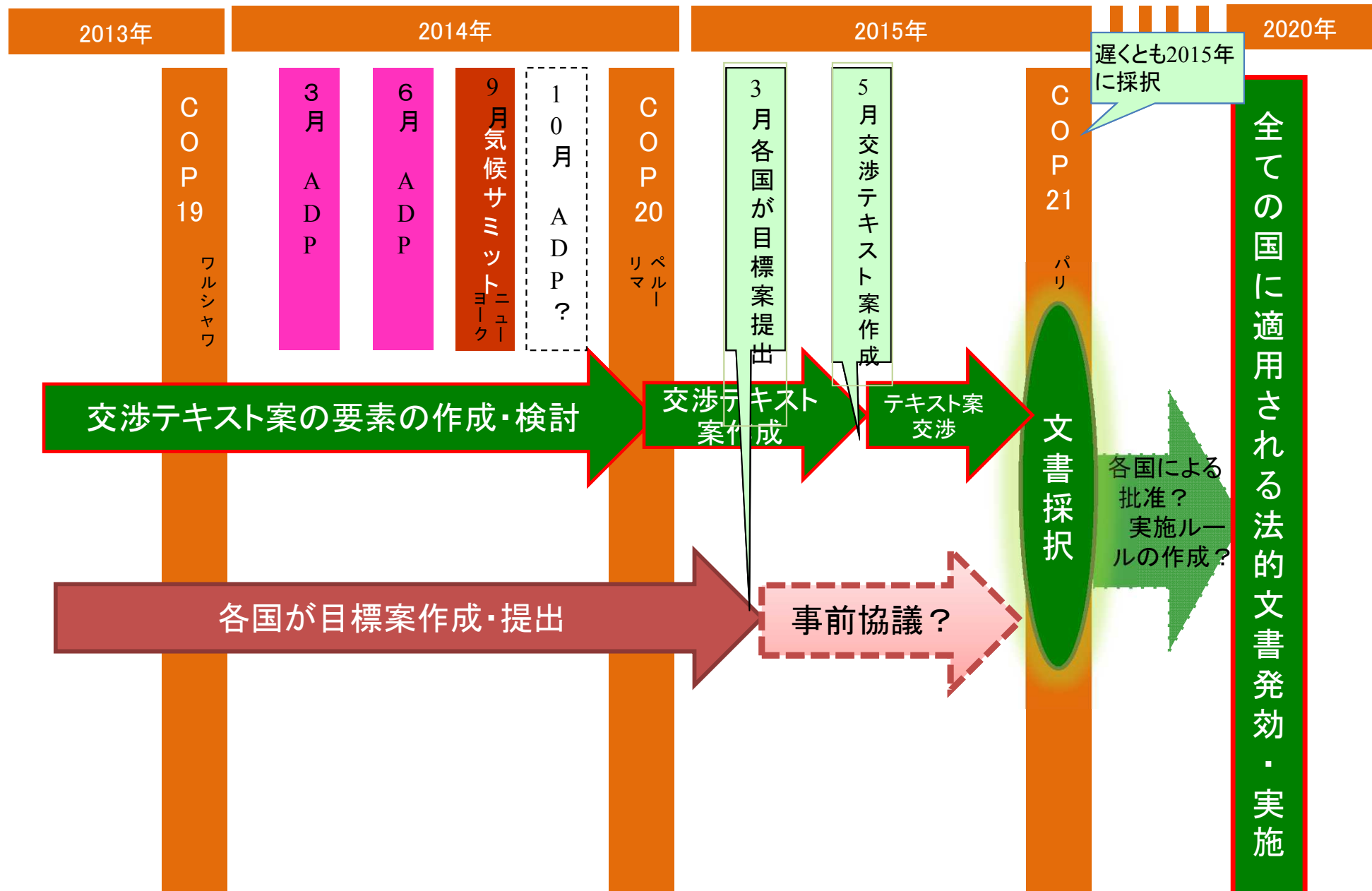
これまでの温暖化交渉の進展

- **1992年 国連気候変動枠組条約採択(1994年発効)**
- 1995年 第1回締約国会議(COP1):ベルリンマンデート
- **1997年 COP3(京都会議):京都議定書採択**
- **2001年10-11月 COP7:マラケシュ合意採択**
- 2005年2月 京都議定書発効
- 2005年11-12月COP11・COP/MOP1(モンリオール会議)
- 2007年12月 COP13・COP/MOP3(バリ会議)
- **2009年12月 COP15・COP/MOP5(コペンハーゲン会議)**
- **2010年11-12月 COP16・COP/MOP6(カンクン会議)**
- **2011年11-12月 COP17・COP/MOP7(ダーバン会議)**
- 2012年11-12月 COP18・COP/MOP8(ドーハ会議)
- 2013年11月 COP19・COP/MOP9(ワルシャワ会議)
- 2014年12月 COP20・COP10(リマ会議)
- **2015年12月 COP21・COP/MOP11(パリ会議)**

2015年合意(2020年以降の法的文書)実施までの道のり



2015年合意に向けた2014年、2015年の交渉の流れ

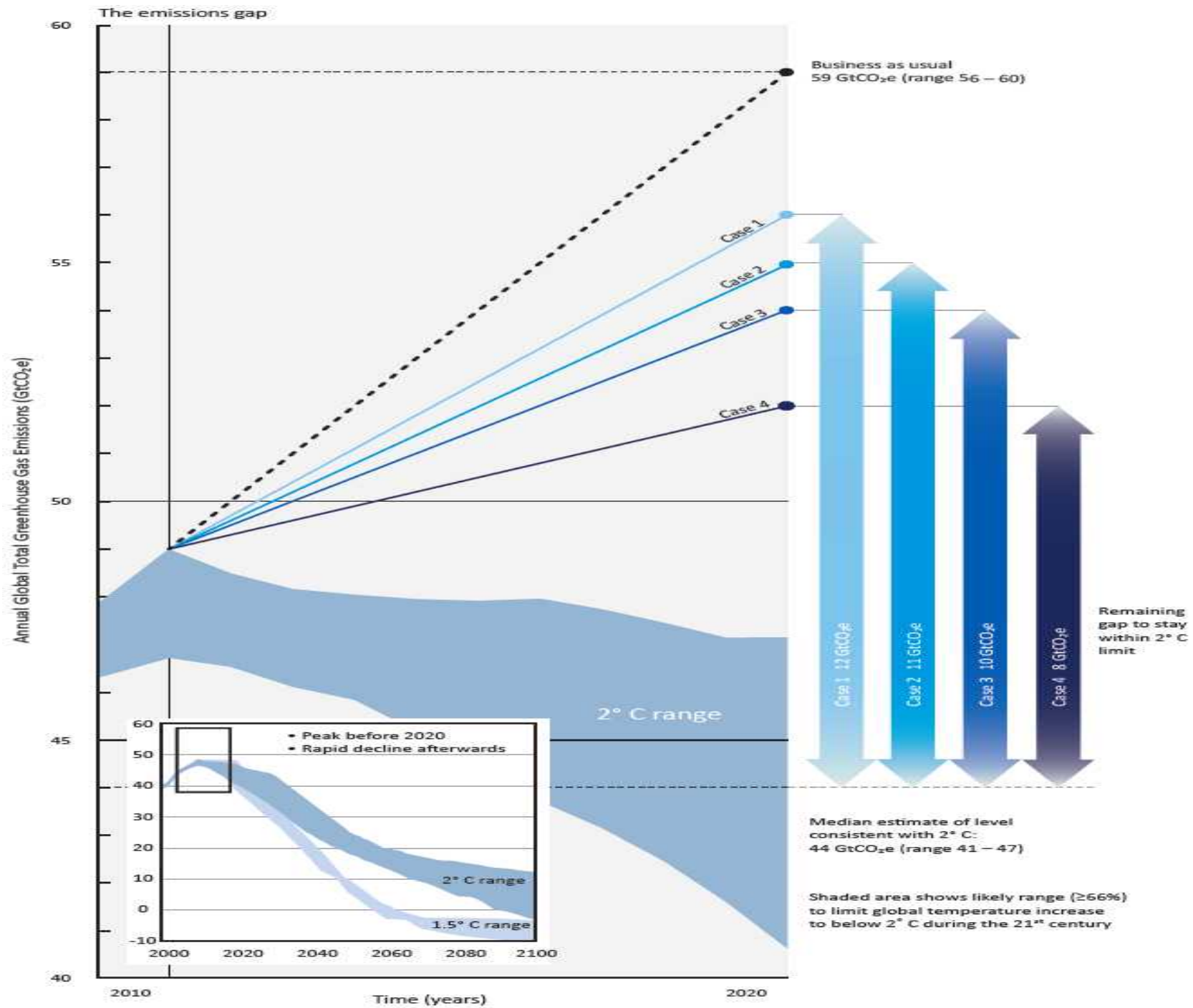


政策の展開と研究への要請(1)

- 政策の展開による**新たな要請**
 - **途上国の削減努力の促進とそれに対する支援**
 - 先進国の排出削減と並んで
 - 努力の**衡平性(同等性)**と国際制度の**実効性**の観点から
 - 「**途上国**」の**多様性**の中での衡平性と実効性
 - **適応策への焦点**
 - 避けられない気候変動の悪影響への対処

政策の展開と研究への要請(2)

- 長期的な削減目標とその含意等に加えて
- 適応
 - 適応策・適応計画の策定
 - 後発途上国だけでなく全ての国が、自身の適応策・適応計画を策定するのに必要な気候変動リスクの評価
 - 協力、支援のあり方
 - 保険などのリスク移転手法の開発
 - イベント・アトリビューション
- REDD plus



Source: UNEP (2013)

COP16の成果

(カンクン適応枠組みの設立)

カンクン適応枠組み(2010年)

適応委員会

締約国に対して**技術的支援**等を実施

国別適応計画

後発途上国(LDC)向けの**中長期の適応計画**の策定

Loss & Damage

島嶼国が求めていた気候変動による**損失と被害についての作業計画**の策定



ダーバンにおいて、具体的な活動内容等に合意し、今後、それぞれ実際の活動に移る

損失と被害(ロス&ダメージ)に関する作業計画

ワルシャワ国際メカニズムの検討事項に

- COP18において、損失と被害(ロス&ダメージ)に関する提言をまとめる
- 作業計画の要素
 - ◆気候リスク保険機構の可能性
 - ◆リスクの管理と低減方策、保険などのリスク共有、移転のメカニズム(マイクロ保険、レジリエンス、経済的多様性等)
 - ◆緩やかに進行する現象に関する回復のための取組
 - ◆専門知識を持った関係機関の関与

ロス & ダメージに関するAOSIS提案 (2012年、2008年提出)

AOSISにより提案されている世界的メカニズムは3つのコンポーネントと3つの機関で構成

マルチ・ウインドウ・メカニズム理事会

1. 保険

・ハリケーン、熱帯低気圧、高潮、洪水、干ばつなどの極端現象による影響をカバー

2. 回復/補償

・海面上昇、海及び陸地における気温上昇、海水酸性化によるサンゴ礁、地下水面、漁業への影響など緩やかに進行する現象をカバー

3. リスク管理

・保険及び回復/補償のコンポーネントについて、リスク評価及び管理のツールの開発・支援を実施

技術助言機構

・ベストプラクティスの共有
・適切なリスク移転手法の技術支援

・各国と地域のベースラインの設定作業
・閾値を超える場合の検証

・リスク管理に関する助言
・天候データの収集・分析

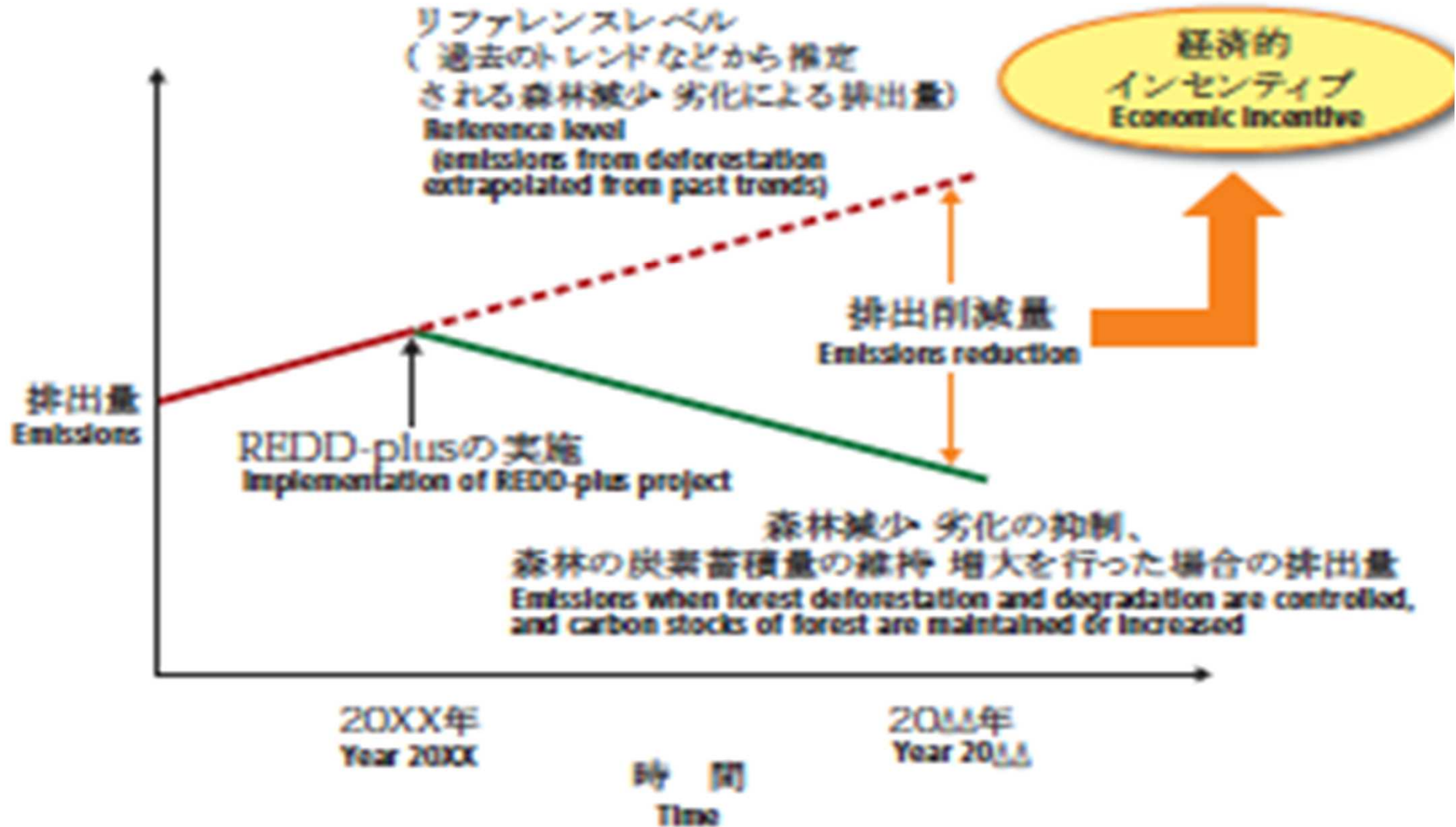
資金機構

・附属書I国からの拠出や官民等からの拠出、保険料の支払い

・附属書I国のGHG及びGDPに基づく基金への拠出
・事象発生時のパラメータに応じた支払い

・リスク削減、リスク管理の支援
e.g. データ収集、ハザードマッピング、リスク評価

REDD plus



結びにかえて

- 気候モデルによる予測等、国際政策の基盤を提供する役割に加えて、実効的な気候変動政策構築のための必要とされるより具体的な研究課題、分野が認識
- 当面鍵になるのは「適応」「途上国」
 - 例えば、前述の事例
 - 途上国において、その国に関わる研究を持続的に遂行できる研究者を育てる能力構築